市制施行30周年記念事業

「未来の鶴ヶ島」 作文コンクール

1月6日、市制施行30周年記念事業「未来の鶴ヶ島」作文コンクールの表彰式が行われました。

市制施行30周年記念事業「未来の鶴ヶ島」作文コンクールには、小中学生1513人から応募がありました。
受賞者は以下のとおりです。

【市 長 賞】秦（はた） 隆太朗（りゅうたろう）さん　藤中学校1学年
【教育長賞】長谷部慶太（はせべけいた）さん　新町小学校5学年
【議 長 賞】長瀬武沙士（ながせむさし）さん　長久保小学校6学年
【市制施行30周年記念賞】今関姫愛（いまぜきひな）さん　藤中学校2学年

今月は、市長賞および教育長を受賞した作文を紹介します。
議長賞・市制施行30周年記念賞受賞作は、3月号に掲載します。
楽しみにお待ちください。

市長賞

守りたい鶴ヶ島の「文化」と「自然」

藤中学校　一年　秦　隆太朗

ぼくが住んでいる鶴ヶ島市の人口は約七万人です。都心から電車で四十分と交通の便もよく、とても住みやすい町です。

今年で市制三十年を迎える「市」としての歴史はまだまだ浅い鶴ヶ島ですが、森や川などの自然が豊かな所で、古くから伝わる文化もあります。

平成十七年に国の選択無形民俗文化財に選ばれた「脚折雨乞」は江戸時代から継承されてきた行事です。一九六四年に一度途絶えてしまいましたが、地域の方が保存会を結成し、一九七六年に復活することができました。この行事では、雷電池という池で長さ三十六メートルの麦わらと孟宗竹、荒縄によって作られた龍神が大暴れし、その後、その場で解体されます。これは「池を汚すことで神を怒らせ、雨を降らせるため」といわれています。ぼくも小学生の頃にこの行事を見たことがありました。生きているように暴れる龍の姿に気持ちがとても盛り上がり、感動したのを覚えています。一度途絶えた文化を復活させたこの地域の方々の熱い思いは今の時代に受け継がれ、そして次の時代にも残していきたいと強く思いました。

伝統文化と共に守っていきたい鶴ヶ島のもう一つの宝は「自然」です。

このところ、ぼくの住む若葉駅周辺では道路の整備が進み、現在は東口と西口をつなぐアンダーパスの工事も始まりました。便利になることを嬉しく思う反面、木が切り倒され、いつも夏になるとうるさいくらいに鳴いているセミの声があまり聞こえなくなりさみしく感じています。

ぼくは小学生の頃、藤金市民の森で授業を受けたことがあります。森の中で虫を探したり、鳥の声を聞いたり、何よりきれいな空気がとてもおいしかったです。その際、お話してくださった市民の森の管理者の方から「昔、この辺りの川はとてもきれいで夏には蛍も見ることができたんだよ。」と教えていただきました。ぼくは、三十年後の未来を考えた時、この少なくなってきたセミたちも蛍のように消えてしまうのではないかと危機感を覚えました。しかし、市民の森の管理者の方々が外来魚問題を改善しようとしたり、自然環境を維持することの大切さをぼくたち子どもに伝えてくださり、さまざまな努力で今も鶴ヶ島の自然を守ってくださっています。

次はぼくたちがそのバトンを受けとって未来の子どもたちにつなげる番です。便利な町、自然豊かな町鶴ヶ島を目指し、いつか蛍が戻ってくることを願って活動したいです。

このように、ぼくの住む鶴ヶ島市には守りたい文化、守らなければならない自然があります。この先、何十年、何百年も続いていく鶴ヶ島の未来が明るいものであることをぼくは心から願っています。

一日市長体験

表彰式当日、受賞の特典として「一日市長体験」を実施しました。4人は、決裁業務を体験したあと、齊藤市長とともに各課を視察し、市の仕事に触れました。最後に臨時記者会見に臨み、新聞記者などからの質問に、「理想の鶴ヶ島」などについて、一日市長として堂々と答えていました。

記者会見

各課視察

模擬決裁

教育長賞

ぼくが思う「未来の鶴ヶ島」

新町小学校　五年　長谷部　慶太

ぼくが思う「未来の鶴ヶ島」は、地域の人が元気で、伝統行事を大切にする、素晴らしい町になっていると思います。

鶴ヶ島は、交通が豊かだけど、市内を走るつるワゴンを待っているお年寄りを見て、雨の日など、バス停に屋根が無いので、とても大変そうでした。そこで、ぼくがしょう来、大人になったら、市内を周るモノレールを作りたいと考えました。モノレールは、鶴ヶ島の緑豊かな自然を残しながら、交通じゅうたいを防ぎ、時間通りに目的地に行くことができます。また、モノレールは、事故もへらすことができるし、安全安心に運行することができます。これからは、ますます高れい化社会となり、お年寄りの交通事故も、ふえてしまうかもしれません。だから、このように、モノレールなどの交通整備が必要だと考えます。

ぼくは、鶴ヶ島が大好きです。近くに高速道路や、電車も走り、交通も便利で、お茶や農作物もたくさんとれる、自然豊かなところが好きです。ぼくは、給食に出る、お茶を使ったスイーツや、鶴ヶ島産の野菜が入ったカレーが大好きです。市内には、たくさんのお茶屋さんがあるところをよく見かけます。小さいころは、お茶は苦手だったけれど、家で鶴ヶ島のお茶を飲んだときに、甘味が少しあって、とてもおいしいと感じました。このような、素晴らしい特産物を、これからもずっと、守っていきたいなと思います。

祖父も、父も、生まれた時からずっと鶴ヶ島にすんでいます。それは、地域のつながりも、近所のつながりも、あたたかい町だからだと思います。ぼくも、子ども会や道路せいそうをしています。その時に、地域の人々の交流を通して、ぼくも、ずっと鶴ヶ島に住みつづけたいなと思います。家のすぐ近くに鉄道が走っています。ぼくは、電車が大好きで、毎日のように見ていました。たまに電車にのると、畑や緑が多く目に入ってきます。電車や高速道路もあって、とても便利な町なのに、まだまだたくさんの自然が残る鶴ヶ島を、大切にしていきたいと思います。

ぼくも、生まれたときから、十一年間、ずっと鶴ヶ島にすんでいます。埼玉県は、海はないけど、川がたくさんあります。鶴ヶ島にも、たくさんの川が流れています。家の近くにも、たくさんの川が流れ、ホタルを見に行ったことがあります。ホタルは、水がきれいなところにしか生息できないということを聞きました。やさしく光るホタルが、ぼくは忘れられません。そんな素晴らしい風景も残しながら、もっともっと、すてきな町になるように、たくさん勉強して、鶴ヶ島のみ力を伝えたいです。